

200924032A

厚生労働科学研究費補助金
第3次対がん総合戦略研究事業

がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担
最小化に関する研究

平成21年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 濃 沼 信 夫

平成22(2010)年3月

厚生労働科学研究費補助金
第3次対がん総合戦略研究事業

がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担
最小化に関する研究

平成21年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 濃 沼 信 夫

平成22(2010)年3月

目次

I 総括研究報告	
がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担最小化に関する研究 濃沼 信夫	1
II 分担研究報告	
1. がん医療の経済的評価に関する研究 濃沼 信夫	17
2. がん長期サバイバーの医療費に関する研究 岡本 直幸	22
3. 化学療法の経済評価に関する研究 江崎 泰斗	25
4. 肺がん医療の経済効果と受診者の負担最小化に関する研究 金子 昌弘	28
5. 前立腺がんの医療経済に関する研究 颯川 晋	30
6. 肝がんの医療経済に関する研究 横須賀 収	34
7. 消化器がんの医療経済に関する研究 杉原 健一	37
8. 乳がんサバイバーの経済負担に関する研究 岩瀬 拓士	43
9. 呼吸器悪性腫瘍の医療経済に関する研究 坪井 正博	45
10. 子宮がんサバイバーの経済負担に関する研究 瀧澤 憲	47
11. 造血系腫瘍の経済負担に関する研究 秋山 秀樹	49
12. 分子標的治療の経済負担に関する研究 鈴木 貴夫	51
13. 分子標的治療の経済負担に関する研究 勝俣 範之	53
III 研究成果の刊行に関する一覧表	55
IV 研究成果の刊行物・別刷	71

資料

I. 総括研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）
総括研究報告書

がんの医療経済的な解析を踏まえた患者負担最小化に関する研究

研究代表者 濃沼 信夫 東北大学大学院医学系研究科 教授

研究要旨

【目的】 がん対策基本法の基本理念には、診療技術の向上、がん医療の均てん化とともに患者の意向の尊重が掲げられており、患者の身体的、精神的な負担に加え、経済的な負担にも適切に対応することが要請されている。本研究では、患者負担の実態を正確に把握するとともに、患者の立場から負担を最小化する方策を検討する。

【方法】 大学病院、がんセンターなど全国の中核的ながん診療施設において、がんのサバイバー、および、経済的負担が比較的大きいと考えられる造血系腫瘍患者と分子標的治療を受けるがん患者を対象に自計調査を実施した。

【結果】 現在まで、サバイバー4,742名（回収率42.2%）、造血系腫瘍および分子標的治療を受ける患者54名（回収率60.0%）より回答を得た。サバイバーの年間の自己負担額は平均29.9万円で、内訳は、入院27.5万円（該当者44.2%）、外来3.5万円、健康食品・民間療法11.6万円（同6.6%）、民間保険料15.6万円などである。一方、償還・給付額は13.5万円で、内訳は、高額療養費15.2万円（該当者13.1%）、民間保険給付金73.4万円などである。造血系腫瘍で分子標的治療を受ける患者の自己負担額は平均155.7万円で、内訳は、入院33.3万円（該当者61.5%）、外来110.5万円、健康食品・民間療法4.7万円（同40.0%）、民間保険料22.4万円などである。一方、償還・給付額は92.0万円で、高額療養費55.6万円（該当者85.7%）、民間保険給付金62.0万円などである。

【考察】 サバイバーは、長期にわたり少なからぬ経済的負担が生じていること、造血系腫瘍患者、分子標的治療を受ける患者の自己負担額は、治療中のがん患者全体の自己負担額に比べ約1.5倍重いことが明らかになった。がん治療の進歩による長期生存者の増加、技術進歩によるがん医療の高額化が進みつつあり、患者の経済的負担の軽減を図ることはますます重要となっている。入院適応、在院日数、検査・投薬の適正化など臨床現場で可能な対策、高額療養費の見直しなど現行制度の運用上の工夫に加え、すべての患者が経済的な理由によらず最適ながん医療が受けられるような体制の整備が必要となっている。これまでの実態調査から、わが国のがん患者の自己負担額のうち直接費用の総額は、治療、フォローアップ、長期生存を合わせ4,610億円（間接費用を含めると8,063億円）と推計され、年間約5,000億円の財政出動でがん医療の無料化が実現すると考えられる。

研究分担者
濃沼 信夫 東北大学大学院医学系研究科
教授

岡本 直幸 神奈川県立がんセンター臨床
研究所 がん予防情報研究部門
専門員

江崎 泰斗 九州がんセンター
消化管・腫瘍内科 医長
金子 昌弘 国立がんセンター中央病院
内視鏡部・呼吸器科 部長
颯川 晋 東京慈恵会医科大学
泌尿器科学講座・泌尿器科学
教授
横須賀 收 千葉大学大学院医学研究院
消化器内科学・腫瘍内科 教授
杉原 健一 東京医科歯科大学 大学院総合
研究科・消化器外科 教授

坪井 正博 神奈川県立がんセンター
呼吸器(外)科 医長
岩瀬 拓士 癌研有明病院
乳腺外科 医長
瀧澤 憲 癌研有明病院
婦人科 部長
秋山 秀樹 都立駒込病院
血液内科 部長
鈴木 貴夫 仙台医療センター
診療部 医長
勝俣 範之 国立がんセンター中央病院
臨床試験・治療開発部 医長

A. 研究目的

今日、技術進歩に伴う高額な抗がん剤や医療機器の登場、治癒率向上に伴う長い臨床経過などで、患者の経済的負担は大きな課題となりつつある。がん対策基本法の基本理念には、診療技術の向上、がん医療の均てん化とともに患者の意向の尊重が掲げられており、患者の身体的、精神的な負担に加え、経済的な負担にも適切に対応することが要請されている。本研究では、患者負担の実態を正確に把握するとともに、患者の立場から負担を最小化する方策を検討する。

B. 研究方法

1. サバイバーの経済的負担に関する調査

大学病院、がんセンターなど全国の中核的ながん診療施設において、長期にわたりフォローアップを受けている20歳以上のがん患者を対象に、質問紙による自計調査を実施した。調査票は、来院時の外来における手渡し、または担当医が把握する名簿からの郵送により配布し、郵送にて回収した。調査期間は平成21年9月～平成22年3月、分析は記述統計による算出を行った。

2. 造血系腫瘍および分子標的治療の経済的負担に関する調査

がんセンターなど中核的ながん診療施設において、造血系腫瘍および分子標的治療を受け

る20歳以上のがん患者を対象に、質問紙による自計調査を実施した。調査期間は平成21年12月～平成22年3月で、調査票は外来で手渡し、郵送にて回収した。

(倫理面への配慮)

調査は臨床研究や疫学研究に関する倫理指針を遵守するとともに、患者を対象にした調査については東北大学、および各施設の倫理委員会の承認を得て実施した。患者に調査の概要と、調査協力の有無により診療上の不利益を被らないことなどを説明するとともに、回収は無記名郵送とし、連結不可能匿名化によるプライバシーの保護を徹底した。

C. 研究結果

1. がんサバイバーの経済的負担に関する調査

回収4,742名(回収率42.2%)のうち、現在までにデータのチェックを終えた3,388名分について解析した。回答者の平均年齢は 64.3 ± 11.5 歳、男性が41.6%である。がんの部位は多い順に、乳房27.2%、大腸20.5%、前立腺11.5%、子宮10.2%、胃9.5%などである。初めてがんと診断された時期は回答時の 7.1 ± 6.1 年前、再発有りは9.6%、再発時期は回答時の 5.6 ± 4.8 年前である。

過去に受けた治療は、手術(内視鏡治療を含む)90.5%、化学療法23.6%、放射線療法

19.5%、内分泌療法8.2%などである（複数回答）。がんのフォローアップのための通院回数は年間4.5±5.0回である。

年間の自己負担額は平均29.9万円、内訳は直接費用として入院27.5万円（該当者44.2%）、外来3.5万円（同98.4%）、交通費1.3万円（同90.5%）である。間接費用は、健康食品・民間療法11.6万円（同6.6%）、民間保険料15.6万円（同54.5%）、その他の費用8.6万円（同44.4%）である。

一方、年間の償還・給付額は平均13.5万円で、内訳は高額療養費15.2万円（該当者13.1%）、医療費還付6.4万円（同9.4%）、民間保険給付金73.4万円（同14.9%）である。

がんに関する困り事として多い順に、治療・心身の面では「再発・転移」42.1%、「排尿・排便」17.0%、「後遺症・副作用」14.6%などである。また、経済的な面では、「医療費（保険診療）」20.9%、「貯蓄の目減り」15.6%、「収入の減少」14.7%など、社会的な面では、「仕事」10.8%、「定期的受診のわずらわしさ」10.6%、「趣味・生きがい」8.5%などである。

がんの経済的負担に関する主な情報源は、病院内では、「担当の医師・看護師」30.1%、「ソーシャルワーカー・事務職員」5.5%、「病院のがん相談窓口」5.0%であり、「情報源はない」は36.7%に上る。病院外では、「新聞・テレビ・ラジオ」21.7%、「インターネット」17.6%、「友人・知人」9.8%、「雑誌・本」9.6%などであり、「情報源はない」は20.1%である。

がん医療の経済的負担に関する要望は、多い順に、「がん医療の経済負担についての正確な情報がほしい」35.8%、「がん医療の自己負担割合を他の病気より軽くしてほしい」35.6%、「がんにかかっても民間保険に加入できるようにしてほしい」35.0%、「自費診療や補装具費用を医療保険でカバーしてほしい」18.7%、「がん医療費は無料にしてほしい」16.2%などである。

2. 造血系腫瘍および分子標的治療の経済的負担に関する調査

現在まで回答のあった54名（回収率60.0%）のうち、造血系腫瘍で分子標的治療を受ける患者20名についてみると、平均年齢は59.3±11.2歳で、男性が50.0%を占める。初めてがんと診断された時期は回答時の4.9±5.0年前で、再発・転移有りは21.1%である。

年間の自己負担額は、155.7万円で、内訳は、入院33.3万円（該当者61.5%）、外来110.5万円（同100%）、交通費3.1万円（同93.8%）である。また、健康食品・民間療法4.7万円（該当者40.0%）、民間保険料22.4万円（同71.4%）、その他の費用11.5万円（同33.3%）である。一方、償還・給付額は平均92.0万円、内訳は高額療養費55.6万円（該当者85.7%）、医療費還付24.4万円（同54.5%）、民間保険給付金62.0万（同50.0%）である。

医療費の支払い方法は「預貯金を取り崩した」85.0%、「高額療養費の貸付制度を利用した」15.0%、「家族・親戚から借りた」10.0%である。

現在受けている治療の経済的負担に関する医療提供側からの説明は、「十分な説明を受けた」、「説明はなかった」がともに42.1%、「覚えていない」が15.8%である。

がんに関する現在の困り事として、治療・心身の面では、「後遺症・副作用」65.0%、「再発・転移」60.0%、「気分が落ち込む」40.0%などである（複数回答）。経済的な面では、「医療費（保険診療）」60.0%、「貯蓄の目減り」60.0%、「収入の減少」50.0%など、社会的な面では、「仕事」35.0%、「定期的受診のわずらわしさ」35.0%などである。また、がん医療の経済的負担に関する要望としては、「がん医療の自己負担割合を他の病気より軽くしてほしい」が70.0%、「がん医療の経済負担についての正確な情報がほしい」が50.0%、「がんにかかっても民間保険に加入できるようにしてほしい」、「がん医療費は無料にしてほしい」が各35.0%などである（複数回答）。

D. 考察

がんのサバイバーの自己負担額は年間 29.9 万円であり、治療中の患者の負担額 100.7 万円（昨年度までの調査結果）の 3 分の 1 程度であるが、長期にわたり経済的負担が少なくないことがうかがえる。また、一部のサバイバーでは、間接費用の継続的な支出があり、収入の減少や貯蓄の目減りが生じている。償還・給付を受けた割合は、医療費還付、高額療養費、民間保険給付金とも各 1 割前後で、一部のサバイバーに限られている。

がんの経済的負担に関する情報源については、「情報源がない」が病院で 3 分の 1、病院外で 2 割を占める。また、がんの経済的負担に関する改善希望として「がん医療の経済的負担について正確な情報がほしい」という意見が少なくない。がんの病状、治療の情報提供は充実されつつあるが、経済的な情報提供に関しては患者のニーズに十分対応できていないことが示唆される。

一方、造血系腫瘍で分子標的治療を受ける患者の自己負担額は 155.7 万円で、がん患者全体の自己負担額（100.7 万円：昨年度までの調査結果）の 1.5 倍に上り、経済的負担が重くなっている。

分子標的薬や粒子線治療など、長足の技術進歩が患者の大きな経済的負担となって治療機会が狭まることのないよう、臨床現場で可能な対策、現行制度の運用上の工夫、制度改革の 3 つのレベルで迅速な対策が必要と考えられる。これまでの実態調査から、わが国のがん患者の自己負担総額は、治療、フォローアップ、長期生存を合わせ、8,063 億円（うち直接費用 4,610 億円）と推計される。年間約 5,000 億円の財政出動で、がん医療の無料化が実現すると考えられる。

E. 結論

がんのサバイバーの年間の自己負担額は平均 29.9 万円、償還・給付額は 13.5 万円である。また、造血系腫瘍で分子標的治療を受ける患者

の自己負担額は平均 155.7 万円、償還・給付額は 92.0 万円である。がんのサバイバーは、長期にわたり少なからぬ経済的負担が生じていること、造血系腫瘍患者、分子標的治療を受ける患者の自己負担額は、治療中のがん患者全体の自己負担額に比べ約 1.5 倍重いことが明らかになった。がん治療の進歩による長期生存者の増加、技術進歩によるがん医療の高額化に対し、患者の経済的負担の軽減を図ることはますます重要となっている。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 濃沼信夫：大腸癌治療の費用効果. 大腸癌診療で知っておきたい医療経済. 大腸疾患 NOW2010 (武藤徹一郎 監修). 日本メディカルセンター. 東京. 81-87, 2010.
- 2) 濃沼信夫：がんの医療経済. 新しい診断と治療の ABC 「胃癌 (改訂 2 版)」. 最新医学社. 大阪. 236-244, 2010.
- 3) 濃沼信夫：介護予防の評価. 医療経済学・政策学の視点から. 公衆衛生. 73(4):286-289, 2009.
- 4) 濃沼信夫：がん検診の現状と問題点. 日本医師会雑誌. 138 特別号(1):s43-s46, 2009.
- 5) 濃沼信夫：胃癌撲滅戦略による経済効果. Helicobacter Research. 13(5):380-384, 2009.
- 6) 濃沼信夫：分子標的薬の医療経済. 日癌治. 44(2):232, 2009.
- 7) 濃沼信夫：胃癌の医療経済. The Forefront. 5(2):33-36, 2009.
- 8) Okamoto N, Miyagi Y, Chiba A, Akaike M, Shiozawa M, Imaizumi A, Yamamoto H, Ando T, Ymakado M and Tochikubo O: Diagnostic modeling with differences in plasma amino acid profiles between non-

- cachectic colorectal/breast cancer patients and healthy individuals. *Int. J. Medicine and Medical Sciences*. 1:1-8, 2009.
- 9) Sakuma Y, Okamoto N, Saito H, Yamada K, Yokose T, Kiyoshima M, Asato Y, Amemiya R, Saitoh H, Matsukuma S, Yoshihara M, Nakamura Y, Oshita F, Ito H, Nakayama H, Kameda Y, Tsuchiya E, Miyagi Y: A logistic regression predictive model and the outcome of patients with resected lung adenocarcinoma of 2cm or less in size. *Lung Cancer*. 65(1):85-90, 2009.
- 10) Numasaki R, Miyagi E, Konnai K, Ikrda H, Yamamoto A, Onose R, Kato H, Okamoto N, Hirahara F and Nakayama H: Analysis of stage IVB endometrial carcinoma patients with distant metastasis; a review of prognoses in 55 patients. *Int J Clin Oncol*. 14:344-350, 2009.
- 11) Miyakawa K, Tarao K, Ohshige K, Morinaga S, Ohkawa S, Okamoto N, Shibuya A, Adachi S, Miura Y, Fujiyama S, Miyase S, Tomita K: High serum alanine amino-transferase levels for the first three successive years can predict very high incidence of hepatocellular carcinoma in patients with Child Stage A HCV-associated liver cirrhosis. *Scandinavian J Gastroenterology*. 44:1340-1348, 2009.
- 12) Shibata Y, Ariyama H, Baba E, Takii Y, Esaki T, Mitsugi K, Tsuchiya T, Kusaba H, Akashi K, Nakano S: Oxaliplatin-Induced allergic reaction in patients with colorectal cancer in Japan. *Int J Clin Oncol*. 14:397-401, 2009.
- 13) 江崎泰斗、高山良子、樋口由起子、大島彰：がん専門病院(がん診療連携拠点病院)緩和ケアチームの現状と地域連携. *癌の臨床*. 55(6):433-439, 2009.
- 14) Baba E, Fujishima H, Kusaba H, Esaki T, Ariyama H, Kato K, Tanaka R, Mitsugi K, Shibata Y, Harada M, Nakano: Phase I Study of Sequential Administration of S-1 and Cisplatin for Metastatic Gastric Cancer. *ANTICANCER RESEARCH*. 29:1727-1732, 2009.
- 15) 江崎泰斗、在田修二、藤本千夏：エビデンスに基づく補助療法 - 術後補助化学療法. *臨床と研究*. 86:44-46, 2009.
- 16) 政 幸一郎、藤本 千夏、有山 寛、江崎 泰斗、村川 昌弘、庄司 哲也、馬場 英司、平沼 成一：Methotrexate/5-Fluorouracil 交代療法中にゾレドロン酸で著明な低カルシウム血症を起こした胃癌骨髄癌腫症の1例. *癌と化学療法*. 36:489-492, 2009.
- 17) Seki N, Eguchi K, Kaneko M, Ohmatsu H, Kakinuma R, Matsui E, Kusumoto M, et al: The adenocarcinoma-specific stage shift in the Anti-lung Cancer Association project; Significance of repeated screening for lung cancer for more than 5 years with low-dose helical computed tomography in a high-risk cohort. *Lung cancer*. 67, 2010.
- 18) 金子昌弘：肺がん死亡減少に気管支鏡の果たす役割. *呼吸と循環*. 57(11):1097, 2009.
- 19) 金子昌弘：がん検診の役割と意義. *治療*. 91(10):2362-2367, 2009.
- 20) 松井英介、金子昌弘、他：低線量 CT による肺がん検診の有効性「東京から肺がんをなくす会」の成績から. *CT 検診*. 16(2):128-134, 2009.
- 21) 古田 希、佐々木 裕、小出晴久、三木 淳、木村高弘、颯川 晋：腹腔鏡下副腎摘除術と開放性手術の手術成績についての比較検討. *臨床泌尿器科*. 63(2):157-163, 2009.
- 22) 古田 希、小出晴久、佐々木 裕、三木 淳、木村高弘、颯川 晋：副腎褐色細胞腫に対

- する腹腔鏡下副腎摘除術の検討. 泌尿紀要 2009. 55(5):245-8, 2009.
- 23) Kuruma H, Kamata Y, Takahashi H, Igarashi K, Kimura T, Miki K, Miki J, Sasaki H, Hayashi N, Egawa S: Staphylococcal Nuclease Domain-Containing Protein 1 as a Potential Tissue Marker for Prostate Cancer. *American Journal of Pathology*. 174(6): in press.
- 24) 車 英俊、鎌田裕子、鷹橋浩幸、五十嵐浩二、木村高弘、下村達也、三木健太、三木淳、佐々木 裕、林 典宏、颯川 晋: 新規前立腺癌マーカーSND1の抗体は、免疫染色において臨床的意義のある癌を染め分けることができるか. *泌尿器外科*. 22(8):947-950, 2009.
- 25) Shimomura T, Ohtsuka N, Yamada H, Miki J, Hayashi N, Kimura T, Kuruma H, Egawa S: Patterns of failure and influence of potential prognostic factors after surgery in transitional cell carcinoma of the upper urinary tract. *Int J Clin Oncology*. 14(3):213-218, 2009.
- 26) 下村達也、佐々木 裕、三木 淳、山田裕紀、木村高弘、古田 希、颯川 晋: 腹腔鏡下根治的膀胱全除術の初期経験. *Jpn J Endourology ESWL*. 22(1):71-76, 2009.
- 27) 佐々木 裕、颯川 晋: 腹腔鏡下神経温存前立腺全摘除術 - Intrafascial nerve-sparing - . *Jpn J Endourol ESWL*. 22(2):179-183, 2009.
- 28) 小池祐介、颯川 晋: がん update 前立腺がん. *日本医師会雑誌*. 138 (特別号1):S243-S244, 2009.
- 29) 木村高弘、清田 浩、三木 淳、鎌田裕子、下村達也、車 英俊、佐々木 裕、中田大介、正木恒男、日下雅美、颯川 晋: 日本人ホルモン抵抗性前立腺癌患者皮膚転移より樹立した新規前立腺癌細胞株. *日本泌尿器科学会雑誌*. 100(2):146, 2009.
- 30) 三木 淳、佐々木 裕、木村高弘、稲葉裕之、山口泰広、畠 憲一、三木健太、颯川 晋: 当施設における前立腺癌リスク分類の動向. *日本泌尿器科学会雑誌*. 100(2):194-216, 2009.
- 31) 佐々木 裕、三木 淳、木村高弘、畠 憲一、三木健太、颯川 晋: 腹腔鏡下前立腺全摘除術における早期尿禁制回復の検討. *日本泌尿器科学会雑誌*. 100(2):135-157, 2009.
- 32) 山本順啓、畠 憲一、山口泰広、木戸雅人、中野雅貴、鷹橋浩幸、佐々木 裕、三木 淳、木村高弘、古田 昭、三木健太、古田 希、颯川 晋: 生検にて1針のみより癌を認めた症例における全摘標本の病理学的検討. *日本泌尿器科学会雑誌*. 100(2):187-209, 2009.
- 33) 鎌田裕子、車 英俊、鷹橋浩幸、木村高弘、下村達也、佐々木 裕、松本和将、西森孝典、朝長 毅、野村丈夫、山田順子、颯川 晋: Periplakin、Envoplakinの上部尿路癌、尿細胞診における発現の検討. *日本泌尿器科学会雑誌*. 100(2):116-138, 2009.
- 34) 木戸雅人、三木健太、青木 学、颯川 晋: I-125 密封小線源永久挿入治療 202 例の成績. *日本泌尿器科学会雑誌*. 100(2):242-264, 2009.
- 35) 石井 元、佐々木 裕、三木 淳、坂東重浩、畠 憲一、木村高弘、三木健太、颯川 晋: ハイリスク前立腺癌に対する前立腺摘除術における病理組織学的検討. *日本泌尿器科学会雑誌*. 100(2):391-413, 2009.
- 36) 都筑俊介、三木 淳、佐々木 裕、下村達也、古田 希、池本 庸、颯川 晋: 膀胱癌に対する根治的膀胱全摘術における臨床的検討. *日本泌尿器科学会雑誌*. 100(2):298-320, 2009.
- 37) Yamada H, Penney KL, Egawa S, et al: Replication of prostate cancer risk loci in Japanese case-control association study. *J Natl Cancer Inst*. 101(19):1330-1336, 2009.

- 38) Kimura T, Kiyota H, Nakata D, Masaki T, Kusaka M, Egawa S: A novel androgen-dependent prostate cancer xenograft model derived from skin metastasis of a Japanese patient. *Prostate*. 69(15): 1660-1667, 2009.
- 39) Ito K, Arai M, Imazeki F, Yonemitsu Y, Bekku D, Kanda T, Yokosuka O, et al: Risk of Hepatocellular Carcinoma in Patients with Chronic Hepatitis B Virus Infection. *Scandinavian Journal of Gastroenterology*. 45:243-249, 2009.
- 40) Nakamoto S, Imazeki F, Fukai K, Fujiwara K, Arai M, Kanda T, Yonemitsu Y, Yokosuka O: Association between mutations in the core region of hepatitis C virus genotype 1 and hepatocellular carcinoma development. *J Hepatol*. 52:72-78, 2009.
- 41) Maruyama H, Takahashi M, Ishibashi H, Okabe S, Yoshikawa M, Yokosuka O: Changes in tumor vascularity precede microbubble contrast accumulation deficit in the process of dedifferentiation of hepatocellular carcinoma. *Eur J Radiol*. 2009, in press.
- 42) Ohno I, Eibl G, Odinkova I, Edderkaoui M, Damoiseaux RD, Yazbec M, Abrol R, Goddard WA 3rd, Yokosuka O, Pandol SJ, Gukovskaya AS: Rottlerin stimulates apoptosis in pancreatic cancer cells through interactions with proteins of the Bcl-2 family. *Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol*. 298(1):G63-73, 2009.
- 43) Fujimoto T, Tomizawa M, Yokosuka O: siRNA of frizzled-9 suppresses proliferation and motility of hepatoma cells. *Int J Oncol*. 35(4):861-6, 2009.
- 44) Yan J, Yamaguchi T, Odaka T, Suzuki T, Ohyama N, Hara T, Sudo K, Nakamura K, Denda T, Takiguchi N, Yokosuka O, Nomura F: Stool antigen test is a reliable method to detect *Helicobacter pylori* in the gastric remnant after distal gastrectomy for gastric cancer. *J Clin Gastroenterol*. 44(1):73-4, 2010.
- 45) Nakamoto S, Sakai Y, Kasanuki J, Kondo F, Ooka Y, Kato K, Arai M, Suzuki T, Matsumura T, Bekku D, Ito K, Tanaka T, Yokosuka O: Indications for the use of endoscopic mucosal resection for early gastric cancer in Japan: a comparative study with endoscopic submucosal dissection. *Endoscopy*. 41(9):746-50, 2009.
- 46) Tsuyuguchi T, Sakai Y, Sugiyama H, Miyakawa K, Ishihara T, Ohtsuka M, Miyazaki M, Yokosuka O: Endoscopic diagnosis of intraductal papillary mucinous neoplasm of the bile duct. *J Hepatobiliary Pancreat Surg*. 2009, in press.
- 47) Chiba T, Kamiya A, Yokosuka O, Iwama A: Cancer stem cells in hepatocellular carcinoma: Recent progress and perspective. *Cancer Lett*. 286(2):145-53. 2009.
- 48) Yonemitsu Y, Imazeki F, Chiba T, Fukai K, Nagai Y, Miyagi S, Arai M, Aoki R, Miyazaki M, Nakatani Y, Iwama A, Yokosuka O: Distinct expression of polycomb group proteins EZH2 and BMI1 in hepatocellular carcinoma. *Hum Pathol*. 40(9):1304-11, 2009.
- 49) 杉原健一: インフォームドコンセントのための図説シリーズ 抗悪性腫瘍薬 大腸癌. 医薬ジャーナル社. 大阪. 総ページ数 107, 2009.
- 50) 杉原健一: ガイドラインサポートハンドブック 大腸癌. 医薬ジャーナル社. 大阪. 総ページ数 246, 2010.
- 51) 安野正道、杉原健一: 骨盤内臓全摘術. 手

- 術. 63(2):141-147, 2009.
- 52) 小林宏寿、榎本雅之、樋口哲郎、安野正道、植竹宏之、飯田 聡、石川敏昭、石黒めぐみ、杉原健一：下部直腸癌：大腸癌治療ガイドラインの解説. 外科. 71(2): 115-119, 2009.
- 53) 石黒めぐみ、杉原健一：大腸癌 5年生存率7割の“治りやすい癌”. Medical ASAHI. 4:28-30, 2009.
- 54) 樋口哲郎、杉原健一：下部消化管癌 消化器癌：診断・治療のすべて. 消化器外科. 32(5):546-551, 2009.
- 55) 青柳治彦、樋口哲郎、杉原健一：結腸がん. 消化器外科ナーシング. 春季増刊:85-94, 2009.
- 56) 樋口哲郎、小林宏寿、石黒めぐみ、杉原健一：直腸癌. 消化器外科. 32(6):1067-1075, 2009.
- 57) 石川敏昭、植竹宏之、杉原健一：アジュバント／ネオアジュバント化学療法の進歩と未来. モダンフィジシャン. 29:954-958, 2009.
- 58) 小林宏寿、榎本雅之、樋口哲郎、安野正道、植竹宏之、飯田聡、石川敏昭、石黒めぐみ、杉原健一、他：低位前方切除術. 消化器外科. 32(8):1307-1312, 2009.
- 59) 植竹宏之、石川敏昭、杉原健一：大腸がん術後補助療法における欧米と日本の相違点. 臨床腫瘍プラクティス. 5(3):305-307, 2009.
- 60) 小林宏寿、杉原健一：大腸癌取扱い規約と大腸癌治療ガイドライン. 医学のあゆみ. 230(10):959-964, 2009.
- 61) 植竹宏之、石川敏昭、杉原健一：大腸がん化学療法におけるベバシズマブの位置付けとその効果. Mebio. 26(10):66-71, 2009.
- 62) 石黒めぐみ、石川敏昭、植竹宏之、杉原健一：大腸がんの術後補助化学療法、今後の展望. Mebio. 26(10):116-123, 2009.
- 63) 石黒めぐみ、小林宏寿、杉原健一：術後サ
ーベイランスは予後の改善に寄与するか.
外科治療. 101(4):479-485, 2009.
- 64) 小林宏寿、杉原健一：大腸癌取扱規約と大腸癌治療ガイドライン. 医学のあゆみ. 230(10):959-964, 2009.
- 65) 小林宏寿、榎本雅之、樋口哲郎、安野正道、植竹宏之、飯田聡、石川敏昭、石黒めぐみ、杉原健一：低位前方切除術の器械による結腸一直腸吻合. 臨床外科. 64(11):252-255, 2009.
- 66) 植竹宏之、杉原健一：病期（ステージ）と大腸癌術後補助化学療法の適応. Pharma Medica. 27(11):11-18, 2009.
- 67) 安野正道、杉原健一：大腸癌肝転移に対する集学的治療戦略における肝切除前・切除後の化学療法について. INTESTINE. 13(6):635-644, 2009.
- 68) 杉原健一：VEGF 抗体ベバシズマブ. Bios. 14-IV:7-8, 2009.
- 69) 石黒めぐみ、安野正道、榎本雅之、樋口哲郎、小林宏寿、杉原健一：肛門温存の適応—適応を絞る立場から. 臨床消化器内科. 25(1):49-54, 2009.
- 70) 石黒めぐみ、杉原健一：レジデントノート. 大腸癌に罹ったあと、またがんになる可能性はありますか?. 大腸癌 FRONTIER. 2(4):88-90, 2009.
- 71) 斎藤祐輔、岩下明德、工藤進英、小林広幸、清水誠治、杉原健一、武藤徹一郎、他：大腸癌研究会「微笑大腸病変の取扱」プロジェクト研究班結果報告. 胃と腸. 44(6):1047-1051, 2009.
- 72) 岡志郎、田中信治、金尾浩幸、五十嵐正広、小林清典、斎藤豊、杉原健一、武藤徹一郎、他：大腸 SM 癌内視鏡治療の中期予後. 胃と腸. 44(8):1286-1294, 2009.
- 73) 小林宏寿、榎本雅之、樋口哲郎、安野正道、植竹宏之、飯田聡、石川敏昭、石黒めぐみ、杉原健一：広範な腹壁膿瘍を呈した盲腸癌の1例. 日本消化器外科学会雑誌. 42(10):1603-1608, 2009.

- 74) 小林宏寿、杉原健一：側方リンパ節転移例の検討からみた側方郭清の適応：大腸癌研究会・プロジェクト研究結果より。大腸癌 FRONTIER. 2(3):213-216, 2009.
- 75) 河合宏美、植竹宏之、小林宏寿、榎本雅之、樋口哲郎、安野正道、飯田聡、石川敏昭、杉原健一：直腸癌術後肺再発に対し Cetuximab が著効した1例。癌と化学療法. 36(12):2152-2154, 2009.
- 76) 樋口哲郎、石川敏昭、塚本俊輔、藤森喜毅、小田剛史、岡崎 聡、石黒めぐみ、杉原健一、他：多発肝転移による高度肝機能障害を合併した進行直腸癌の1例。癌と化学療法. 36(12):2181-2186, 2009.
- 77) Fujimori T, Fujii S, Saito N, Sugihara K: Pathologic diagnosis of early colorectal cancer and its clinical implication. Digestion. 79(suppl.1): 40-51, 2009.
- 78) Kobayashi H, Sugihara K, Uetake H, Higuchi T, Yasuno Y, Enomoto M, Iida S, Lenz HJ, Danenberg K, Danenberg PV: Messenger RNA expression of COX-2 and angiogenetic factors in primary colorectal cancer and corresponding liver metastasis. Int J Oncol. 34(4): 1147-1153, 2009.
- 79) Motoyama K, Inoue H, Takatsuno Y, Tanaka F, Mimori K, Uetake H, Sugihara K, Mori M: Over- and under-expressed microRNAs in human colorectal cancer. Int J Oncol. 34(4):1069-1075, 2009.
- 80) Kinugasa Y, Sugihara K: Why does levator ani nerve damage occur during rectal surgery?. J Clin Oncol. 27(6):999-1000, 2009.
- 81) Kobayashi H, Mochizuki H, Kato T, Mori T, Kameoka S, Shirouzu K, Sugihara K: Outcome of Surgery alone for lower rectal cancer with and without pelvic sidewall dissection. Dis Colon Rectum. 52(4):567-576, 2009.
- 82) Kobayashi H, Mochizuki H, Morita T, Kotake K, Teramoto T, Kameoka S, Sugihara K, et al: Timing of relapse and outcome after curative resection for colorectal cancer a Japanese multicenter study. Dig Surg. 26(3):249-255, 2009.
- 83) Akasu T, Sugihara K, Moriya Y: Male urinary and sexual functions after mesorectal excision alone or in combination with extended lateral pelvic lymph node dissection for rectal cancer. Ann Surg Oncol. 16(10):2779-2786, 2009.
- 84) Ogiya A, Horii R, Osako T, Ito Y, Iwase T, Eishi Y, Akiyama F: Apocrine metaplasia of breast cancer: clinicopathological features and predicting response. Breast Cancer. 30, 2009.
- 85) 岩瀬拓士：V乳腺の手術 乳房切除術 (Bt+SNB) .手術. 金原出版. 東京. 875-880, 2009.
- 86) 森園英智、岩瀬拓士：非浸潤性乳癌の治療 非浸潤性乳癌の特性と局所療法. 戸井雅和. みんなに役立つ乳癌の基礎と臨床. 医薬ジャーナル社. 大阪. 479-489. 2009.
- 87) Tamaki Y, Akiyama F, Iwase T, Kaneko T, Tsuda H, Sato K, Ueda S, Mano M, Masudsa N, Takeda M, Tsujimoto M: Molecular Detection of Lymph Node Metastases in Breast Cancer Patients: Results of a Multicenter Trial Using the One-Step Nucleic Acid Amplification Assay. Clinical Cancer Research. 15(8):2879-2884, 2009.
- 88) Osako T, Horii R, Ogiya A, Iijima K, Iwase T, Akiyama F: Histogenesis of metaplastic breast carcinoma and axillary nodal metastases. Pathology International. 59(2):116-120, 2009.
- 89) Ueda N, Tada K, Miyata S, Koizumi M,

- Kuroda Y, Iwase T: Identification of sentinel lymph node location based on body surface landmarks in early breast cancer patients. *Breast Cancer*. 16(3):219-222, 2009.
- 90) Tanaka K, Akiyama F, Nishikawa N, Kimura K, Gomi N, Oda K, Iwase T: Invasive carcinoma of the breast accompanied by coarse calcification. *American Journal of Roentgenology*. 193:W70-W71, 2009.
- 91) 堀井理絵、五味直哉、岩瀬拓士、秋山太：非触知石灰化病変の病理診断。臨床放射線。54(11):1299-1306, 2009.
- 92) Abe M, Miyata S, Nishimura S, Iijima K, Makita M, Akiyama F, Iwase T: Malignant transformation of breast fibroadenoma to malignant phyllodes tumor: long-term outcome of 36 malignant phyllodes tumors. *Breast Cancer*. 26, 2009.
- 93) 岩瀬拓士：乳癌の外科治療と教育。乳癌の臨床。24:23-32, 2009.
- 94) Shimada Y, Tsuboi M, Saji H, Miyajima K, Usuda J, Uchida O, et al: The Prognostic Impact of Main Bronchial Lymph Node Involvement in Non-Small Cell Lung Carcinoma: Suggestions for a Modification of the Staging System. *Ann Thorac Surg*. 88:1583-1588, 2009.
- 95) Teramukai S, Kitano T, Kishida Y, Kawahara M, Kubota K, Komuta K, Tuboi M, et al: Pretreatment neutrophil count as an independent prognostic factor in advanced non-small-cell lung cancer: An analysis of Japan Multinational Trial Organisation LC00-03. *EJC*. 45:1950-1958, 2009.
- 96) 滝沢 憲：卵巣がんの抗がん剤以外の治療を望む方へ受け皿となる免疫細胞治療。武藤徹一郎。免疫細胞治療。幻冬社。東京。190-199, 2009.
- 97) Takeshima N, Utsugi K, Hasumi K, Takizawa K: Prospective adjuvant chemotherapy for node-positive cervical adenocarcinoma. *Int J Gynecol Cancer*. 19:277-280, 2009.
- 98) Umayahara K, Takeshima N, Nose T, Fuziwara F, Sugiyama Y, Utsugi K, Yamashita T, Takizawa K: Phase I study of concurrent chemoradiotherapy with weekly cisplatin and paclitaxel chemotherapy for locally advanced cervical carcinoma in Japanese women. *Int J Gynecol Cancer*. 19:723-727, 2009.
- 99) Yamamoto K, Kokawa K, Umesaki N, Nishimura R, Hasegawa K, Konishi I, Saji F, Nishida M, Noguchi H, Takizawa K: Phase I study of combination chemotherapy with irinotecan hydrochloride and nedaplatin for cervical squamous cell carcinoma; Japanese Gynecologic Oncology Group study. *Oncology Report*. 21:1005-1009, 2009.
- 100) 竹島信宏、滝沢 憲：婦人科がん治療ガイドライン策定の背景と今後の動向 I. 子宮頸癌の初回治療。癌と化学療法。36:205-208, 2009.
- 101) 尾松公平、宇津木久仁子、坂本公彦、川又靖貴、馬屋原健司、杉山裕子、竹島信宏、滝沢 憲：子宮頸癌、腔癌における骨盤内蔵全摘術の有用性の検討。日本産科婦人科学会東京地方部会会誌。58:260-263, 2009.
- 102) 尾松公平、岩瀬春子、馬屋原健司、杉山裕子、竹島信宏、滝沢 憲：多発骨盤リンパ節転移を認めた Ia1 期相当子宮頸部腺扁平上皮癌の一例。日本婦人科腫瘍学会雑誌。27:409-413, 2009.
- 103) 澤田武志、名島悠峰、大橋一輝、加藤生真、宮澤真帆、中野美香子、小林武、山下卓也、秋山秀樹、坂巻壽：初診時より多発性の巨大髓外形質細胞腫を呈した多発性骨髄腫。臨床血液。50(11):1635-1640, 2009.

- 104) Najima Y, Ohashi K, Miyazawa M, Nakano M, Kobayashi T, Yamashita T, Akiyama H, Sakamaki H: Intracranial hemorrhage following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *American Journal of Hematology*. 84(5):298-301, 2009.
- 105) Yamamoto M, Kamihana K, Ohashi K, Yamaguchi T, Tadokoro K, Akiyama H, Sakamaki H: Serial monitoring of T315I BCR-ABL mutation by Invader assay combined with RT-PCR. *Int J Hematol*. 89:482-488, 2009.
- 105) Ando M, Mori J, Ohashi K, Akiyama H, Morito T, Tsuchiya K, Nitta K, Sakamaki H: A comparative assessment of the RIFLE, AKIN and conventional criteria for acute kidney injury after hematopoietic SCT. *Bone Marrow Transplant*. 2010;online
- 106) Sakurai C, Ohashi K, Sakaguchi K, Hishima T, Kamata N, Akiyama H, Sakamaki H: Mikulicz' s disease with severe thrombocytopenia following autologous stem cell transplantation in a multiple myeloma patient. *Int J Hematol*. 90:532-536, 2009.
- 107) Kakihana K, Ohashi K, Sakai F, Kamata N, Hosomi Y, Nishiwaki M, Yokoyama R, Kobayashi T, Yamashita T, Akiyama H, Sakamaki H: Leukemic infiltration of the lung following allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Int J Hematol*. 89:118-122, 2009.
- 108) 鈴木貴夫, 山浦玄悟, 吉田美貴子: がん薬物療養における制吐剤使用の適正化に関する研究. *日本癌治療学会誌*. 44(2): 703, 2009.
- 109) 勝俣範之: 産婦人科関連 専門医ガイドブック〜サブスペシャリティー選択のため
- に. *がん薬物療法専門医 (日本臨床腫瘍学会)*. *産科と婦人科*. 76(11):1436-1447, 2009.
- 110) 本多和典, 勝俣範之: 各臓器癌に対する薬物療法 婦人科癌 卵巣癌. *日本臨床*. 増刊号: 695-699, 2009.
- 111) 原野謙一, 勝俣範之: がん薬物療法のガイドライン. *婦人科*. *腫瘍内科*. 5(1):58-65, 2010.

2. 学会発表

- 1) Koinuma N: Does the cancer screening reduce the cost of cancer? 12th World Congress on Public Health. Istanbul, Turkey. 2009. 4.
- 2) 濃沼信夫: がん治療の医療経済. 薬剤経済学研究会. 東京. 2009. 5.
- 3) 濃沼信夫: 胃癌の医療経済. 第 14 回 JAPANGAST Study Group. 札幌. 2009. 7.
- 4) Koinuma N: Significance of postoperative follow-up for colorectal cancer from economic viewpoint. Joint 15th European Cancer Organization and 34th European Society for Medical Oncology Multidisciplinary Congress. Berlin, Germany. 2009. 9.
- 5) Koinuma N, Ito M, Ogata T: Economic motivation for behavior modification to undergo the cancer screening. 68th Annual Meeting of Japan Cancer Association. Yokohama. 2009. 10.
- 6) 濃沼信夫: 分子標的薬の医療経済. 第 47 回日本癌治療学会 特別企画シンポジウム. 横浜. 2009. 10.
- 7) Koinuma N, Ito M: Genetic screening of HNPCC. *Frontiers in cancer prevention research*, American Association for Cancer research. 2009. 12.
- 8) 岡本直幸, 山内桂子, 杉山恵子, 浅野まり子, 萩原素子, 野中恵美, 武宮省治: がん電話相談の意義と相談内容について—神

- 奈川県がん臨床研究・情報機構のこころみ
一. 第 17 回日本ホスピス・在宅ケア研究
会. 高知. 2009. 7.
- 9) Yamada A, Shimizu D, Chiba A, Miyagi Y,
Yanagida Y, Saruki N, Mitsushima T,
Yamakado M, Imaizumi A, Yamamoto H,
Okamoto N: A novel screening marker
composed of plasma free amino acid
concentrations "Amino Index" for
breast cancer. 第 68 回日本癌学会. 横浜.
2009. 10.
- 10) Okamoto N: Analysis of the relationship
between socioeconomic indicator and
cancer incidence by regional mesh
statistics. 第 68 回日本癌学会. 横浜.
2009. 10.
- 11) Miyagi Y, Okamoto N, Imaizumi A, Ando T,
Yamamoto H, Yamakado M, Tsuchiya E,
Kishida K, Miura T: A novel screening
maker composed of plasma free amino acid
concentrations (Amino Index) for
prostate cancer. 第 68 回日本癌学会. 横
浜. 2009. 10.
- 12) 吉見逸郎、原田 久、立石泰子、岡本直幸：
受動喫煙と乳幼児のニコチン検査. 第 68
回日本公衆衛生学会. 奈良. 2009. 10.
- 13) Esaki T, Satoh T, Ura T, Tsujinaka T,
Sasaki Y, Yamazaki K, Yamada Y, Ishizuka
N, Hyodo I, Sakata Y: A prospective PGx
and PK/PD dose-finding study of
irinotecan based on UGT1A1*6 and *28
genotyping(UGT0601). 2009 ASCO Annal
Meeting. Orland, FL. 2009. 6.
- 14) 江崎 泰斗、佐藤 太郎、宇良 敬、辻仲 利
政、佐々木 康綱、山崎 健太郎、山田 康
秀、石塚 直樹、兵頭 一之介、坂田 優：
UGT1A1 遺伝子多型群別の CPT-11 用量設定
試験(UGT0601 試験). 第 47 回 日本癌治療
学会学術集会. 横浜. 2009. 10.
- 15) 江崎 泰斗、高島 淳生、山崎 健太郎、森
脇 俊和、三宅 泰裕、勝又 健次、山下 啓
史、福永 睦、加藤 誠之、文田 壮一、兵
頭 一之介：大腸癌既治療例の
FOLFIRI/FOLFOX とベバシズマブ併用に関
する多施設調査研究：中間報告. 第 47 回
日本癌治療学会学術集会. 横浜. 2009. 10.
- 16) Kimura Y, Kiyota H, Nakada D, Masaki T,
Kusaka M, Egawa S: A novel androgen-
dependent prostate cancer xenograft
model derived from skin metastasis of
Japanese patient. 24th Annual EAU
Congress. ストックホルム. 2009. 3.
- 17) Yamamoto T, Hayashi N, Miki K, Egawa S,
et al: Relationship between biopsy
maximum cancer length and surgical
margin In patients with prostate cancer
of one positive core. The World Congress
on Controversies in Urology. リスボン.
2009. 2.
- 18) 木村高弘、清田 浩、三木 淳、鎌田裕子、
下村達也、車 英俊、佐々木 裕、中田大
介、正木恒男、日下雅美、颯川 晋：日本
人ホルモン抵抗性前立腺癌患者皮膚転移
より樹立した新規前立腺癌細胞株. 第 97
回日本泌尿器科学総会. 岡山. 2009. 4.
- 19) 三木 淳、佐々木 裕、木村高弘、稲葉裕
之、山口泰広、畠 憲一、三木健太、颯川
晋：当施設における前立腺癌リスク分類の
動向. 第 97 回日本泌尿器科学総会. 岡山.
2009. 4.
- 20) 佐々木 裕、三木 淳、木村高弘、畠 憲
一、三木健太、颯川 晋：腹腔鏡下前立腺
全摘除術における早期尿禁制回復の検討.
第 97 回日本泌尿器科学総会. 岡山.
2009. 4.
- 21) 山本順啓、畠 憲一、山口泰広、木戸雅人、
中野雅貴、鷹橋浩幸、佐々木 裕、三木 淳、
木村高弘、古田 昭、三木健太、古田 希、
颯川 晋：生検にて 1 針のみより癌を認め
た症例における全摘標本の病理学的検討.
第 97 回日本泌尿器科学総会. 岡山.
2009. 4.

- 22) 鎌田裕子、車 英俊、鷹橋浩幸、木村高弘、下村達也、佐々木 裕、松本和将、西森孝典、朝長 毅、野村丈夫、山田順子、颯川 晋: Periplakin, Envoplakin の上部尿路癌、尿細胞診における発現の検討. 第 97 回日本泌尿器科学総会. 岡山. 2009. 4.
- 23) 木戸雅人、三木健太、青木 学、颯川 晋: I-125 密封小線源永久挿入治療 202 例の成績. 第 97 回日本泌尿器科学総会. 岡山. 2009. 4.
- 24) 石井 元、佐々木 裕、三木 淳、坂東重浩、島 憲一、木村高弘、三木健太、颯川 晋: ハイリスク前立腺癌に対する前立腺摘除術における病理組織学的検討. 第 97 回日本泌尿器科学総会. 岡山. 2009. 4.
- 25) 都筑俊介、三木 淳、佐々木 裕、下村達也、古田 希、池本 庸、颯川 晋: 膀胱癌に対する根治的膀胱全摘術における臨床的検討. 第 97 回日本泌尿器科学総会. 岡山. 2009. 4.
- 26) 高橋正憲、丸山紀史、石橋啓如、岡部真一郎、吉川正治、横須賀收: 肝細胞癌の分化度診断におけるソナゾイド造影超音波の有用性. 第 95 回日本消化器病学会総会. 札幌. 2009. 5.
- 27) 大岡美彦、金井文彦、小笠原定久、篠崎勇介、岡部真一郎、吉川正治、横須賀收: 肝原発悪性腫瘍に対する EOB-MRI の有用性. 第 95 回日本消化器病学会総会. 札幌. 2009. 5.
- 28) 横須賀收: C型肝炎ウイルスによる肝発癌における Androgen Receptor シグナリングの関与. 第 27 回犬山シンポジウム. 犬山. 2009. 8.
- 29) 杉山晴俊、露口利夫、横須賀收: 胆道癌術前進展度診断における経口胆道鏡の有用性. 第 45 回日本胆道学会学術集会. 千葉. 2009. 9.
- 30) 杉山晴俊、露口利夫、横須賀收: 当科における原発性硬化性胆管炎と胆管癌合併例の検討. 第 45 回日本胆道学会学術集会. 千葉. 2009. 9.
- 31) 高橋正憲、丸山紀史、横須賀收: 早期肝癌の診断ストラテジー: ソナゾイド造影超音波による分化度の推定. 第 51 回日本消化器病学会大会. 京都. 2009. 10.
- 32) 篠崎勇介、吉川正治、横須賀收: DPC 時代の肝動脈塞栓併用ラジオ波熱焼灼療法の意義. 第 51 回日本消化器病学会大会. 京都. 2009. 10.
- 33) 多田素久、横須賀收、小俣政男: 肝発癌、進展における Hedgehog signal 抑制系因子の関与. 第 13 回日本肝臓学会大会. 京都. 2009. 10.
- 34) 藤本竜也、富澤 稔、横須賀收: Frizzled-9 の抑制は肝細胞癌・肝芽腫に対する分子標的治療に有用である. 第 51 回日本消化器病学会大会. 京都. 2009. 10.
- 35) 岡部真一郎、吉川正治、横須賀收: 肝癌動注化学療法の治療効果における血管新生因子 (VEGF) とその受容体 KDR、flt-1 の遺伝子発現の意義. 第 51 回日本消化器病学会大会. 京都. 2009. 10.
- 36) 樋口哲郎、小林宏寿、石川敏昭、松山貴俊、青柳治彦、岡崎聡、石黒めぐみ、飯田聡、植竹宏之、安野正道、榎本雅之、杉原健一: Stage II 大腸癌における再発危険因子の検討. 第 109 回日本外科学会. ポスター. 福岡. 2009. 4.
- 37) 小林宏寿、望月英隆、森田隆幸、固武健二郎、寺本龍生、亀岡信悟、高橋慶一、斉藤幸夫、大矢雅敏、長谷和生、前田耕太郎、平井孝、亀山雅男、白水雄、杉原健一: S M 大腸癌における再発の特徴と術後フォローアップ. 第 109 回日本外科学会. ワークショップ. 福岡. 2009. 4.
- 38) 石黒めぐみ、加藤俊介、清水紀香、小林宏寿、石川敏昭、飯田聡、植竹宏之、樋口哲郎、安野正道、榎本雅之、杉原健一: 郵送式アンケートによる直腸癌術後の排便機能および QOL に関するまえむき縦断研究. 第 109 回日本外科学会. サージカルフ

- オーラム, 福岡. 2009. 4.
- 39) 杉原健一: 転移性肝癌の治療戦略. 第 21 回日本肝胆膵外科学会. シンポジウム (総括). 名古屋. 2009. 6.
- 40) 塚本俊輔、小林宏寿、石黒めぐみ、石川敏昭、飯田聡、植竹宏之、安野正道、樋口哲郎、榎本雅之、杉原健一: 高齢者の進行大腸癌に対する 3 群リンパ節郭清の有用性の検討. 第 64 回日本消化器外科学会総会. 要望演題 5-3. 大阪. 2009. 7.
- 41) 岡崎聡、樋口哲郎、小林宏寿、石川敏昭、石黒めぐみ、飯田聡、植竹宏之、安野正道、榎本雅之、杉原健一: 大腸癌肺転移切除術後の予後因子の検討. 第 64 回日本消化器外科学会総会. 一般演題 (ポスター). 大阪. 2009. 7.
- 42) 植竹宏之、石川敏昭、杉原健一: 大腸癌化学療法～世界との乖離をどこまで埋める? 第 47 回日本癌治療学会学術集会. シンポジウム 1. 横浜. 2009. 10.
- 43) 石川敏昭、石黒めぐみ、小林宏寿、飯田聡、樋口哲郎、榎本雅之、安野正道、杉原健一: 大腸癌に対する bevacizumab 併用化学療法の有用性と新しい肝転移治療戦略の検討. 第 64 回日本大腸肛門病学会学術集会. シンポジウム 2. 福岡. 2009. 11.
- 44) 小林宏寿、榎本雅之、樋口哲郎、安野正道、飯田聡、石川敏昭、石黒めぐみ、塚本俊輔、岡崎聡、菊池章史、杉原健一: SM 癌に対する内視鏡的治療適応拡大の可能性と腹腔鏡手術の安全性に関する検討. 第 64 回日本大腸肛門病学会学術集会. シンポジウム 3. 福岡. 2009. 11.
- 45) 大迫智、堀井理絵、井手佳美、道本薫、松沼亮一、増村京子、木村聖美、岩瀬拓土、秋山太: 乳癌センチネルリンパ節転移診断への OSNA 法導入. 第 47 回日本癌治療学会学術集会. 横浜. 2009. 10.
- 46) 伊藤良則、三木義男、秋山太、松浦正明、長崎光一、岩瀬拓土、畠清彦: 乳がん治療の個別化 病態に応じた治療法の最近の
進歩 遺伝子診断による個別化乳癌術前化学療法 (Personalized breast cancer therapy: recent advances in breast cancer therapy tailored to individual clinical conditions Individualized primary chemotherapy by genetic diagnosis for breast cancer). 第 68 回日本癌学会. 横浜. 2009. 10.
- 47) 武藤信子、岩瀬拓土、木村聖美、森園英智、飯島耕太郎、宮城由美、西村誠一郎、多田敬一郎、蒔田益次郎、秋山太: 多発浸潤 (Multifocal) を認める乳癌の予後. 第 17 回日本乳がん学会. 東京. 2009. 7.
- 48) 伊藤宏之、中山治彦、渡邊創、石川善啓、菅泰博、坪井正博、近藤哲郎、齋藤春洋、尾下文浩、山田耕三、本田健、村上修司、野田和正: 高齢者非小細胞肺癌における手術適応と成績. 第 49 回日本呼吸器学会学術講演会. 東京. 2009. 11.
- 49) 中山優子、野中哲生、齋藤春洋、横瀬智之、備前麻衣子、近藤哲郎、尾下文浩、山田耕三、野田和正、菅泰博、伊藤宏之、坪井正博、中山治彦、長谷川千花子、亀田陽一: 肺大細胞神経内分泌癌 (LCNEC) に対する放射線治療効果の検討 (会議録). 第 47 回日本癌治療学会学術集会. 横浜. 2009. 10.
- 50) 久保昭仁、吉岡弘鎮、武田晃司、海老規之、菅原俊一、片上信之、谷尾吉郎、松井薫、坂英雄、坪井正博、他: 未治療進行非小細胞肺癌に対する S-1 とイリノテカン併用療法の多施設共同第 II 相臨床試験 (WJTOG 3505). 第 49 回日本呼吸器学会学術講演会. 東京. 2009. 6.
- 51) 竹島信宏、松村真紀、太田剛志、川又靖貴、藤原 潔、杉山裕子、宇津木久仁子、瀧澤憲: 子宮頸癌 IB2-IIB 期を対象とした術前化学療法の効果. 日本婦人科腫瘍学会 47 回学術集会ワークショップ. 東京. 2009. 11.
- 52) 森 甚一、秋山秀樹: 臍帯血移植後に再発した Imatinib 抵抗性慢性骨髄性白血病の

急性転化に対する Dasatinib と化学療法の併用療法. 第 71 回日本血液学会学術集会. 京都. 2009. 10.

- 53) 若林志穂子、秋山秀樹：非血縁間骨髄移植後の E B ウイルス関連リンパ増殖性疾患に Rituximab が奏功した一例. 第 71 回日本血液学会学術集会. 京都. 2009. 10.
- 54) 永田安伸、秋山秀樹：Dasatinib 投与患者における Large granular lymphocytosis の臨床学的特徴. 第 71 回日本血液学会学術集会. 京都. 2009. 10.
- 55) 鈴木貴夫：がん薬物療法時の制吐剤使用の最適化について. 日本癌治療学会総会. 横浜. 2009. 10.
- 56) 勝俣範之：再発卵巣がんの治療. 第 47 回日本癌治療学会学術集会. 横浜. 2009. 10.
- 57) 小野麻紀子、田村研治、清水千佳子、小泉史明、勝俣範之、他：HER2 陽性の転移性乳がん患者におけるトラスツズマブの治療効果と FUT8 の酵素活性・SNPs の相関について (Analysis for SNPs and activities of FUT8 and clinical efficacy of trastuzumab in patients with HER2+ breast cancer). 第 68 回日本癌学会. 横浜. 2009. 10.
- 58) 谷岡真樹、清水千佳子、小野真紀子、温泉川真由、平田泰三、米盛勤、河野勤、田村研治、安藤正志、勝俣範之、藤原康弘：術前化学療法 (NC) 後病理学的完全奏効 (pCR) を得た乳がん患者の再発予測因子. 第 17 回日本乳がん学会. 東京. 2009. 7.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

Ⅱ. 分担研究報告書